

子曰く、之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。

知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ。知者は動き、仁者は静かなり。知者は楽しみ、仁者は寿し。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「学習して様々なことを知る人は、学習することが

好きだという人にはかなわない。学習することが好きだという人は、それが楽しくてしょうがないという人にはかなわない。学んだり研究したりして今まで知らなかったことを発見した

り、今までの思い込みがぶっこわされて新しい世界が開けることを楽しむ人が、最高の学修者なのである。

知者は、状況に応じてどのようにでも姿形を変えられる水のような生き方を楽しみ、仁者はどつしりと落ちていて、どのような天変地異が起きても動揺することがない山のようなありかたを楽しむ。知者はダイナミックに活動し、仁者は様々なことに煩わされることなく安静に落ち着いている。知者は様々なことを楽しみ、いつでも心が快活であり、仁者は寿命が長い。」

「知者」とは「知識のある人」ですが、それは今現在の思い込みを頑固に信じ続けて、新しい見方考え方によって今の考え方が壊されるのを恐れたり、拒否したりするような人ではありません。むしろ頭の中に築きあげたものが、さらに素晴らしいものによってぶっ壊され、作り直すことが楽しくてしょうがないような人です。「いままでの自分をすべて否定するみたいでいやだ」とか、「自分がなくなりそうで怖い」などという人が多いのですが、くだらないことです。そのくらいのことでは決まってしまう「自分」ならば、ほんとうになくなってしまえばいい。人間のすごさは、そんなことでは決まらなくなったり壊れたりしないことです。むしろ、それまでの経験も生かしてさらにパワーアップしてゆくとができるのが本当のところですよ。「知者」はそれが楽しくてしょうがないのです。

「仁」は深い慈しみや思いやりの心です。誰にでもありますが、これに徹することほど困難なことはありません。あまりにも仁徳の強い人ほど、騙されやすく、軽蔑され、いじめられ、悪用され、貶められ、ほとんど評価されない。それでも仁徳に徹することのできる人は、まさに不動の山の如き存在です。